

資産運用の読み物

経済・投資のあんちよこ



VOL.16

話題のシェアリングエコノミーで、何ができるようになるの？

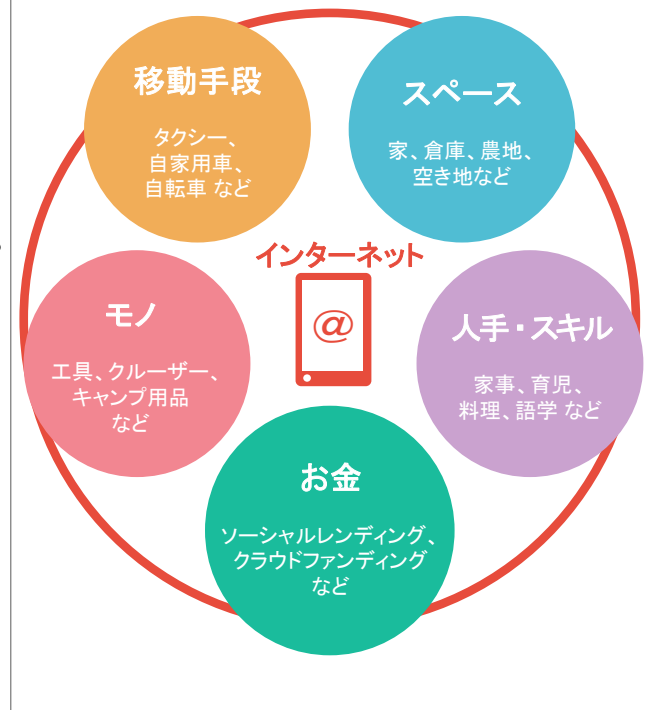
今回の話題

個人が所有する空いてる時間や場所、モノなどを、それを必要としている利用者と共有できる「シェアリングエコノミー」が世界中で急拡大しています。シェアリングエコノミーの登場で、どんなことができるようになるのでしょうか？

個人間の取引をインターネットでマッチング

- シェアリングエコノミーの代表例が「Uber」など、一般ドライバーが自家用車を使って実質的にタクシー業務を提供するもので、ユーザーはスマートフォンひとつで簡単に手配し、決済までできます。
- 旅行者が一般の空き家や部屋を借りられるサービスで話題の「Airbnb」もその一例です。これらに共通するのは、持っている人と必要としている人の取引をインターネットでマッチングさせる点です。
- このほかにもキャンプ用品など使用頻度の限られるモノを個人間で貸し借りしたり、個人の空き時間を用いて家事や育児、語学や翻訳など専門スキルを提供するもの、お金を借りたい人と貸したい人をマッチングするサービスなどもあります。
- シェアリングエコノミーの市場規模は年々伸びており、2025年には全世界で約3,350億ドルと、2013年の約22倍になる見込みです（※情報通信白書 平成27年版）。今後もシェアリングエコノミーはますます多種多様な分野に広がっていきそうです。

■ 広がるシェアリングエコノミーの分野



Point

インターネットをプラットフォームにしたシェアリングエコノミーの登場で、
個々人の遊休資産はそれを必要としている利用者と効率良く共有できるように！

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。